

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

9月14日

NO、19

人を育てる

「人は育てるのか育つのか。どちらだろう。」

ある有名な創業経営者が、著書に書かれていました。どちらがというものではないと思います。「人は学ぶ生き物である。」ということは言えます。

人は環境から学ぶ。「朱に交われれば赤くなる」と昔から言われています。よい環境を用意することが子どもの成長にとって大切なことです。

人は、人から学ぶ。どういう人、どういう教えを学ぶかで人格が決まります。よき人、よき教えに出会えるかが重要になります。幕末の志士は、よき教え、よき人物を求めて日本中を旅したことは、ご存じだと思います。

人は、自ら学ぶ者だけが学ぶ。二人の偉人の言葉があります。

「太陽の徳、広大なりといえども、芽を出さんとする念慮、育たんとする気力なきものは仕方なし。」

二宮尊徳

「之を如何せん。之を如何せんといわざる者は吾之を如何ともするなきのみ。」 孔子

稀代の教育者であっても、自ら学ぼうという意志のない者に教えることはできません。

Jリーガー輩出日本一の前橋育英高校サッカー部監督の山田耕介氏は、「SKILL（技術）を伸ばすにはWILL（意志）が重要だ」といいます。

柏レイソルの小泉佳穂選手のことをとりあげて「できるか、できないか」ではなく「やるか、やらないか」である。柏レイソルの小泉選手は、体が小さく高校時代は相手に吹き飛ばされていた。それでも、果敢に挑戦し、相手の意表を突く術を自ら考えて身につけた。その技術はプロの世界でも通用していると言います。

今でこそ、4度の高校サッカー全国大会を制覇し、日本一多くのJリーガー生み出している前橋育英高校ですが、山田氏監督就任当時は、悲惨な状態でした。部室を訪ねるとリーゼント頭の部員がたむろし、たばこの吸い殻が山積み、あいさつをしても睨みつけるという有様でした。

そのサッカー部が変わったのは、強豪校「浦和南」との試合でした。0対18の大惨敗、意気消沈する選手とは違い、キャプテンは「悔しい」と言いました。浦和南とは何が違うという山田氏の問いに、キャプテンは「グラウンドにゴミは一つもない。ラインがまっすぐに引いてある。」と答えたそうです。技術ではなく、環境や礼儀の違い、大切さに気づいた。技術はすぐには追いつけない。環境や礼儀は追いつくことができる。そこからチームが変わったと言います。

山田氏は言います「サッカーが上手？それがどうした。サッカーの技術が大事ではない。人としての生き方が大事なのだ」と。

榎本小学校 校長 篠崎 勇